

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4077800086		
法人名	有限会社 ウェルフェアサービス		
事業所名	グループホーム ほほえみ館		
所在地 (電話番号)	〒830-0207 久留米市城島町城島37-2 (電話) 0942-42-4553		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成21年1月22日	評価確定日	平成21年2月26日

【情報提供票より】(H20年12月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 14 人, 非常勤 2人, 常勤換算 15 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 / <u>単独</u>		新築 / 改築
建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,500 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有 ( 円)	<u>無</u>	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円) <u>(無)</u>	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (12月16日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名
要介護3	4 名	要介護4	7 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85 歳	最低 73 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	安本病院、上野医院、富田病院、椛島歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体医院とデイサービス棟に囲まれた環境に設立された5年目のグループホームである。代表者が高齢の両親を抱え「お年寄りが好き」、そして職員にもあるがままにお年寄りを受け入れて欲しいという熱意を出発点に豊かな人間関係を保ち、チームワークよくおおらかに、利用者本位で運営されているのが特徴である。1・2階とも真ん中に食堂があり、それを取り囲むように居室が配置された集まりやすい構造である。居室もゆったりとしており、一人ひとりの希望の部屋づくり、暮らし方が出来ている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題であった役割、楽しみごと、気晴らしの支援、災害対策について、利用者本位で全職員で話し合い、日々の実践を深めて改善に向けて取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>代表者・施設長・全職員は評価の意義を理解し、今回の自己評価について十分検討し取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>利用者の実態や状況の変化、ケアの内容や課題、地域との関わりなど事業所での様々な取組みや喜びについて活発に討議されている。会議を行う事により、自治体や包括支援センターとも理解が深められるようになってきている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>苦情相談箱を設置し、相談担当者をお知らせして面会時に意見を聞くよう工夫している。まだ家族会の結成には至っていないが、事業所の催しには半数以上の家族の参加があるので、その機会を利用して話し合いを行い、サービスに活かしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の祭りに積極的に参加したり、外出時に声をかけてもらったり、地域の美容院に送迎するだけでお任せできたりするなど、隣接のデイサービスに近隣の方々の参加が増えたことで地域との連携が強まってきている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に密着した事業所にしたいという思いで設立され、「ゆったり、楽しくありのままに、暮らして頂く」の理念は全職員の業務に活かされている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設長を始め職員一同が理念を共有して、毎日理念の実践に努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	伝統的な地域の祭りやバレーボール大会に職員が意欲的に参加したり、隣接のデイサービスを利用する地域の高齢者との交流があったり、馴染みの美容室を利用したりしている。自治会、老人会との関わりも少しずつ増え、地域の一員として地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員全員が外部評価の意義を理解し、前回評価での改善課題であった役割、楽しみ、気晴らしへの支援、災害対策について利用者本位を貫き、改善に取り組んでいる。今回の自己評価も月1回の会議で協議し、全体のスキルアップに活かされている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催される運営推進会議において、困難事例やケアの現状、ヒヤリ・ハット事例報告、意見交換を行い、内容を全スタッフに報告する事でサービス向上に活かしている。また、他施設での取組みも議題として出され、学びの場ともなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村や包括支援センターに出向いたり、電話相談をするなどよく連携し、サービスの質の向上にむけて取り組んでいる。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	権利擁護に関する研修に参加したり、スタッフ会議で制度について学びあっている。実際に制度を活用した事例もある。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に利用者の暮らしぶりなど報告している。健康状態の悪化や認知症状の変化など、速やかに報告すべきと判断した時は、来館を待たずに電話連絡を行い、面会が少ないご家族には生活状況を書いた手紙や写真を郵送するなど個々に合わせた報告をしている。職員の異動は口頭で伝えるほか、掲示もしている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情相談箱を設置し、苦情相談窓口の連絡先を掲示している。入居時の契約書に苦情相談窓口職員名の明記もある。意見等があれば、スタッフ会議で検討し、結果は掲示するとともに、運営推進会議で報告し意見をもらうようにしている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職による利用者のダメージを必要最小限に抑えるため、日頃から他のフロアの利用者にも声かけをして馴染みの関係を作っている。異動に際しては、利用者の心身の状況、ケアの方法、注意点などを共有し、異動後にスムーズにケアに入ることが出来るように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	代表者及び施設長は、職員の採用にあたって性別・年齢よりも積極性や「お年寄りに対する考え方」、「お年寄りが好きであるか」を重視している。勤務する上でお互いが協力し合える態勢づくりや楽しく勤務できるように工夫に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動  法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	代表者や施設長は、近隣で開催される人権研修に対して積極的に参加を促し、スタッフ会議においての報告を徹底している。		
13	21	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に2回は外部研修が義務づけられ、積極的に機会が確保されている。また代表者や施設長に気軽に相談でき、スタッフ同士の交流もあるため、離職率の低下に繋がっている。		
14	22	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会への参加はもとより、同業者間の相互訪問や職員間のバレーボール大会参加などにより同業者との交流が深まり、サービスの質の向上に活かされている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にご家族から本人への説明をして納得していただいたうえで、体験入居や事前調査などを行い、顔見知りの関係が出来るように工夫している。近くの方の入居も増えるなど馴染みの関係が出来易くなってきている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であり、教えていただくことの方が多いいことを職員は理解している。食事などの日常生活の場面の中でも支え合う関係を築いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	やりたいことや趣味などを聞き、一人ひとりのペースで生活できるように支援している。意思の表出が困難な方には、家族に若い頃の生活や性格について話を聞いたり、ご本人と接してみても表情や行動などで把握に努めている。		
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の係わりの中で、本人、家族、ケアスタッフの聞き取りを行って、利用者本位の介護計画に反映させている。遠方のため、なかなか面会に来られない家族もあるので、聞き取りに時間がかかり工夫が必要である。		家族の聞き取りの工夫の一環として、記録様式を検討する方向で予定されているので期待したい。
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しが行われている。ケアの変更が必要な時はできるだけ速やかに話し合い、現状に即したケアの提供ができています。記録も確認できる。		記述式の記録形式であるので、ケアがきちんとされているのに記録できていない場合もあり、生活の様子やケアでの変化や気付きなどの分かりやすい様式の検討を期待したい。
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設されているデイサービスに通っての交流や逆にデイサービスの方が宿泊しに来られたり、通院や美容室利用の送迎をするなど多機能性が発揮された支援が出来る。		
<b>4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に応じて入居前のかかりつけ医の受診をそのまま継続する事も可能であり、適切な診断や治療を受けられるよう対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、入居者のご家族には早い段階からかかりつけ医を交えて話し合い、書面での説明も十分に行っている。3、4件の看取りの経験があり、家族の宿泊や救急搬送など家族の希望や気持ちを受け止めながら職員と家族が全員で共有している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者個々のプライバシーを損ねないような声かけや接し方には全職員がさりげない配慮を心がけている。居室入り口のネームプレートも家族の了解のもと貼っている。記録関連の個人情報も所定の場所に置くなどプライバシーの確保を徹底している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事、睡眠など生活の場面で本人の意欲や力、ペースを大事にしながら、時間を区切った対応でなく、一人ひとりの体調や希望に沿って支援している。居室で一人ゆっくり食事することを希望される方には応えるなど、その人らしく過ごしてもらっている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は会話しながら見守り、利用者が自発的に食器を片付けたり、テーブルを拭いたりするなど、力を活かしながら食事を楽しむ工夫や配慮がある。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個浴を楽しみ、職員とリラックスした気分で会話しながら過ごせるよう支援しているが、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴ができていないか、再度検討することが望まれる。		利用者のその日の希望を確認して入っていただいているだろうか、職員の体制がとれず午前・午後だけの時間設定になっていないだろうか等、ケアの見直しとして検討していけることを期待している。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの役割を作り、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。毎日の出来事をこまめに日記風 に書き留める方、書道や絵画が得意な方々など、それぞれさりげなく支援できている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所での行事参加は行われている。また体調や季節を考慮しての日常的な散歩、買物、ドライブ、ご近所との交流も出来ている。		外出を認知症に対する地域の方々の理解を深める機会としてとらえ、一人ひとりの希望をより引き出すことが出来るように期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は開放され、センサーによるチャイムを使用し、鍵をかけない暮らしの大切さについて全職員の意識として徹底している。居室については、ご本人のプライバシー保護のための検討も全職員で取組んでいる。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と協力して、夜間を想定した避難訓練では担架での搬送、救急蘇生法を実施した。心肺蘇生、転落、火傷、けがの応急処置についても行い、いつでも対応出来るよう定期的な訓練を実施しており、全職員で徹底している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体医院の管理栄養士が献立管理をし、事業所に調理師が配置され、利用者も出来る範囲で手伝い、バランスのとれた食事が提供されている。一人ひとりの習慣や食事形態も考慮した適切な食事が提供され、水分量・食事摂取量も確保されるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調理の匂いが漂う食堂には利用者や職員の似顔絵、絵の作品、折り紙など季節の飾りが貼ってあり、まるで我が家の手作りの作品に囲まれて過ごしているような配慮がある。1,2ユニットともに季節柄加湿器も置かれ、居心地のよい共用空間となるよう工夫されている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやベッドは作り付けがあるが、本人や家族と相談して使い慣れた椅子や入れ物、飾りなど好みものを持ち込み、ご本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。白内障の方も多いためカーテンや椅子の位置を考慮し眩しすぎないよう配慮している。		